

2019年度事業報告

自 2019年 4月 1日
至 2020年 3月 31日

1947（昭和22）年に「印刷技術の進歩発展を通して印刷文化に貢献すること」を目的に設立された印刷図書館も、令和という新時代の幕開けに、今後新たな変化を迎えるであろう印刷業界のさらなる発展に貢献すべく、その一助となるよう本年度は専門図書館としての整備充実を図ることで、貴重な印刷文化資料の保全に努めました。また2019年度は台風等による浸水被害で多くの図書館・関連施設が被災し問題になった年でもあり、先達より引き継いできた資料の数々を守り伝えねばと、決意を新たにさせられる一年でもありました。

2019年度の事業運営にあたりましては、一般財団法人としての公益役割を踏まえつつ、専門図書館としての一般公開及びサービス、利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供とともに、2019年度「事業計画」に基づき、各事業の積極的な推進に努めました。

本年度の各事業の実施状況を報告するに当たり、下記のとおり、印刷図書館の事業体系に沿ってご報告いたします。

印刷図書館の事業体系

【公益目的事業】 1. 図書館運営事業

- (1) 専門図書館としての一般公開及びサービス
- (2) 図書・資料の収集、整理
- (3) 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供
- (4) 関連機関との相互協力

2. 広報活動及びデータベース、ホームページ管理事業

- (1) 受入れ資料のデータベース化
- (2) インターネットへの蔵書データの更新
- (3) ホームページを通しての新刊情報の紹介
- (4) ホームページを通しての財団活動報告等
- (5) 「印刷図書館コレクション」を活用した周知活動

【その他事業】 所蔵する印刷文化財の貸出等

【重点テーマ】 1. 専門図書館としての設備充実強化 2. 図書館活動の活性化

【運営管理業務】 理事会及び定時評議員会の開催

事業報告

【公益目的事業】

1. 図書館運営事業

(1) 専門図書館としての一般公開及びサービス

① 利用状況

当図書館の利用にあたっては、会費を納めている法人(維持会員)は無料、それ以外は、一般利用 600 円、学生 200 円としている。

利用者の多くが印刷業界並び関連業界であるが、一般利用者の特徴として、シンクタンクやコンサルティングサービス会社による印刷業界の動向及びデータ収集の利用が多い。

前年度は平成最後の年ということで平成総まとめ用に資料を求める利用者が多く、そのため利用需要が増加していたが、本年度はその分が減少して 2019 年度における利用者総数は前年度 11.5 % 減の 302 名だった。内訳は次のとおりである。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3 月 30 日以降より休館している。

(単位:名)

維持会員	一般	学生	合計
187	110	5	302

② 閲覧分野

今年度、最も多く閲覧された分野は、例年同様、印刷業界の分析資料で、全体の約 45 % を占める。それ以外の閲覧については幅広く閲覧され、今年度も、明治時代の書体見本等の貴重資料については、実物を直に触れることができるため、書体研究家等に好評であった。

2019 年度における閲覧分野の大まかな内訳は次のとおりである。

明治時代の書体見本帳の一例
 (左:『活版見本』(1903年) 中央・右:『三號活字總數目録』(1883年)



(単位:件／複数回答)

市場分析 動向 統計	技術 経営 料金 管理	資機材 (印刷機械、 紙、インキ等)	社史 組合史 歴史 人物伝	学会要旨 国内外論文	明治 大正 昭和初期 史料	書体 活字	他 (叙勲・業界 イベント等)
141	34	30	37	9	30	19	14

③ 貸出業務及びコピーサービス

ア 貸出業務

貸出については、維持会員のみ可能で、2週間で5冊としている。ただし、貴重資料並びに、最新データについては、館外貸出を行っていない。

今年度における貸出状況は次のとおりである。

(単位:点)

市場分析 動向・統計	技術・経営 料金・管理	社史・組合史 歴史・人物伝	学会要旨 国内外論文	明治・大正 昭和初期史料	雑誌 他
11	12	1	2	1	22

イ コピーサービス

コピー総数は利用者の減少に伴い、約9%減少して1,892枚だった。そのうち約半数は、市場分析及び統計資料のコピーで全体の5割を占める。

今年度におけるコピーの利用状況及びパソコン利用は次のとおりである。

(単位: コピー／枚、PC／名)

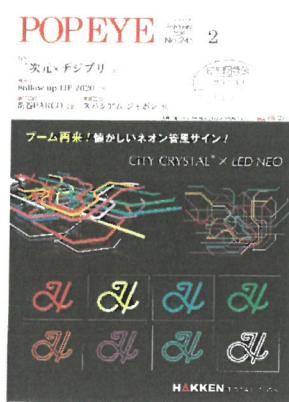
白黒コピー枚数 (@50円)	カラーコピー枚数 (@100円)	私物PCへの入力 (@400円)
1,609枚	283枚	6名

(2) 図書・資料の収集、整理

図書、資料の収集にあたっては、印刷関連の発行状況を常に把握し、積極的に関連団体や企業に問い合わせ、充実を図ったほか、バックナンバーの欠号補充にも努めた。とくに本年度は新たにサイン・ディスプレイ関連の専門誌『POP EYE (ポップアイ)』『Signs&Displays (サイン&ディスプレイ)』を受け入れ、これまで日本印刷産業連合会にて保管されていた『全国カタログ・ポスター展目録』が寄贈されるなど、関連分野の資料収集に努めた。

今年度における受入資料の総数は1027点、区分の内訳は次のとおりである。

(今年度より新たに収集することになった資料の一例)



『2019年度 受入資料の区分』

(単位:点)

区分	点数	資料紹介
プリプレス	5	グラフィックデザイナーのための色の基本
印刷技術	6	フォーム印刷業界の現状と課題
後加工	4	日本のラベル市場
印刷資材／印刷機械	4	機能紙研究会誌
技術一般／料金／出版／法令 環境／経営	19	図解でよくわかる! みんなの印刷入門 印刷会社のためのこんなときどうする? !一知的財産アドバイス Vol.1~2
名簿／業界イベント／図録	79	全国カタログ・ポスター展《目録》 カレンダーレンタル、各種名簿
市場分析、動向、統計	33	出版月報、矢野経済研究所の分析資料 印刷白書、産連データ、オフ輪年報
調査研究報告書	3	IoT を活用した印刷産業機械の次世代技術に関する 調査研究報告書
研究論文、セミナー要旨	13	学会主催の各種セミナー要旨
学会誌	22	印刷、画像、写真、メディア学会誌等
組合史・団体史	4	兵庫県印刷工業組合 設立 60 周年記念誌
その他印刷関連史	3	日本語活字印刷史
国内雑誌類	238	23誌(月刊、隔月、季刊発行)
外国雑誌類	8	月刊印刷コリア(韓国)
業界新聞	322	10紙(週刊、月2、月3発行)
会報、機関誌等	256	61誌(月刊、季刊、年刊発行)
その他	8	日本紙幣の肖像やデザインの謎
合 計	1027	

(3) 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供

専門図書館である印刷図書館の利用者は、探す資料内容もかなり細かくなるため、そのニーズに対応できるよう、資料は特集記事ならびに注目記事をデータベース化し、より詳細な資料情報の提供に努めた。

また、当館で該当資料が見つからなかった場合は、他の機関にも問い合わせをし、所蔵の有無を確認し対応した。他にも、印刷に関する専門家に取材依頼をしたいので連絡先を紹介してほしいとの問い合わせがあり、その際に

は個人情報保護の観点から、依頼機関と専門家での間で仲立ちをし、紹介をするなどした。

(4) 関連機関との相互協力

2019年度より専門図書館協議会に加盟し、そのホームページの会員欄に掲載されるとともに11月12日～14日かけて開催された「第21回 図書館総合展」では、専門図書館協議会ブースの「専門図書館紹介コーナー」にて、印刷図書館のリーフレット300部と参加館一覧（印刷図書館含む76館）の情報を載せた配布資料約750部が配布された。リーフレットの配布は3日目の昼頃には全て頒布が終わり好評だったので今後も継続していく。

また一般社団法人日本印刷産業連合会が主催・後援等するイベントチラシを図書館にも設置するなど、業界団体や公的機関との連携・協力に積極的に取り組んだ。

2. 広報活動及びデータベース、ホームページ管理事業

今年度は、中央区の図書館（京橋・月島・日本橋）及び日本印刷産業連合会会員10団体の事務局に当館のリーフレットを置いていただくよう送付を行った。また日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会より都内の会員宛にリーフレット配布協力の申し出があり、追加で120部送付した。

さらに、日本印刷会館1階には来館者誘導のため図書館の案内板を新たに設置した。

（左・中央：案内板 右：リーフレット）



当館の広報活動は、主にホームページを通して実施しており、蔵書データの更新、新刊情報の紹介、財団活動等をその都度発信し、広報活動に努めた。なお、前年度と比較するとアクセス総数は19.4%減少している。
2019年度のホームページのアクセス件数は次のとおりである。

・アクセス件数 (期間：2019年4月～2020年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
閲覧数	799	853	934	810	685	533	623	665	630	761	579	1314

・アクセスユーザーの比率 (期間：2019年4月～2020年3月)

新規ユーザー	リピーター
90.8%	9.2%

(1) 受入れ資料のデータベース化

今年度の受入れ資料1027点すべてを、蔵書管理システムへデータベース化した。さらに、過去にデータ化されていなかった資料、353点をデータベースに登録した。入力事項は、基本の書誌データ（タイトル、発行元、発行年、体裁）以外に、特集記事も入力し蔵書管理に努めた。

(2) インターネットへの蔵書データの更新作業

入力したデータは、速やかにインターネットへデータ転送し、ホームページの【蔵書検索】機能の充実と、情報公開に努めた。

(3) ホームページを通しての新刊情報の紹介

受入れ資料のうち、定期刊行物以外の図書、報告書類については、ホームページの【新刊情報】に、表紙画像とともに主要目次を掲載し紹介した。

今年度の掲載件数は昨年度の約1.15倍の44件だった。

(4) ホームページを通しての財団活動報告、その他

ホームページを通して平成30年度の理事会及び定時評議員会に関する事業報告を掲載した。

(5) 「印刷図書館コレクション」を活用した周知活動

70周年記念事業にて刊行した『印刷図書館コレクション』を新たに66の全国の文化・芸術および関連する情報・研究機関に広く配布・頒布した。特に、東京都の市区町村の公立中央図書館など、調べものをする際一番身近で利用頻度の高いと思われる機関を中心に謹呈し、印刷文化及び印刷産業の理解促進、情報の発信に努めた。

配布先一例：

大正大学附属図書館、新宿区立中央図書館、文京区立水道橋図書館等

3. その他事業

・所蔵する印刷文化財の貸出

株式会社ファミリーマガジンが刊行する『古関夫妻、愛の物語』において、大正時代に西洋楽器が流行し、楽器の中でマンドリンが人気であったことを示す図版としてポスター『サクラビール』(1916年)のデジタル画像を提供した。

《重点テーマ》

1. 専門図書館としての設備充実強化

本年度は保存用簡易ブックカバー作成装置コリブリシステムを導入することにより、201点の蔵書に保護カバーを装着し利用時の摩擦・痛みを軽減させた。またWindows7のサポート期間が2020年1月14日で終了となるため、2019年10月に事務用のパソコンをWindows10へと入れ替えた。それに伴い、図書館の資料及び利用者・貸出等すべてを管理している『MBA FACIL 蔵書管理システム』をWindows10対応にバージョンアップさせた。他にも日本印刷会館1階には図書館の案内板を新たに設置し、設備充実強化に努めた。

(ペンローズ年鑑：1898年～ 左から8番目までが保護カバー装着済み)



2. 図書館活動の活性化

「印刷関連専門図書館交流会」の実施

2019年12月に、印刷図書館と印刷博物館とで、第二回「印刷専門図書館交流会」を開催した。開催の趣旨は、交流会を通じてそれぞれの立場や活動内容の相互理解を深め、印刷技術・文化に関する知識の収集と保存、公開活動に役立てていくことにある。今後も定期的に開催し、協力体制を築くことで印刷図書館の業務活性化に努めることとした。今回は印刷図書館の見学会となり、印刷博物館より司書含めた4名、当館より司書含めた5名が参加し、印刷図書館の来歴、図書館業務の説明の後、館内ならびに書庫の見学、所蔵する資料の紹介をし、その後懇親会を行った。

《運営管理業務》

理事会・定時評議員会の開催

2019年度における開催状況は、次のとおりである。

(1) 2019年度 定時評議員会

- ・開催日時 2019年6月12日 午後2時半～2時50分
- ・開催場所 ホテルニューオータニ 翔の間
- ・出席者 評議員25名中16名
理事16名中16名、監事2名中2名
- ・決議事項 ・平成30年度計算書類承認の件
- ・理事1名選任の件 ・評議員1名辞任の件
- ・報告事項 平成30年度事業報告の件
公益目的支出計画の実施完了の件

(2) 2019年度第1回 理事会（書面決議による理事会）

- ・理事会の決議があったとみなされた日／2019年5月13日
- ・理事会決議があったとみなされた事項の内容
 - ・平成30年度事業報告並びに決算の件
 - ・2019年度定時評議員会の開催日の件

(4) 2019年度第2回 理事会（書面決議による理事会）

- ・理事会の決議があったとみなされた日／2019年3月18日
- ・理事会決議があったとみなされた事項の内容
 - ・2019年度事業計画並びに予算の件

(付記) 事業報告に係る附属明細書について

事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はないので附属明細書は作成していない。

以上